

# 会館だより

---

---



2014年 8月号

No. 302



公益財団法人 日中友好会館

---

---



## 目次

### お知らせ

- ・役員選任に関するお知らせ

### 就任ご挨拶

常務理事 荒井克之

### 行事案内

#### 《日中友好会館美術館》

- ・貸美術館催事「筆之友選抜書道書展」

#### 《日中友好後楽会》

- ・9月談話会
- ・新規会員ご紹介

### 活動記録

- ・春季ハイキング
- ・藤沢市訪問
- ・観光体験・留学生の発信力に期待！
- ・後楽寮ビール祭り
- ・「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第10陣が来日
- ・「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第11陣が来日

### 事務局通信

- ・資産管理部のご紹介

### 会館行事と人の動き

#### 表紙

##### 青海湖（青海省）

青海省はチベット高原の東北部に位置し、平均標高が3,000mあり、中国最大の内陸塩水湖「青海湖」を有しています。チベット族、回族、トゥ族、サラ族、モンゴル族等の多くの少数民族がこの地で暮らしています。

※今秋の「中国文化之日」には、青海省より少数民族歌舞団が来日予定です。また同時開催展としてタンカ（仏画）を展示します。詳細は次号でご案内いたします。



## ● お知らせ ●

### ■ 役員選任に関するお知らせ ■

日中友好会館は公益財団法人に移行後二年を経過し、本年5月及び7月に行われました評議員会及び理事会におきまして、理事の改選と新役員の選任を致しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

名誉顧問	程 永華	会 長	江田 五月
顧 問	林 義郎	副 会 長	宮本 雄二
顧 問	谷野作太郎	副 会 長	劉 智剛
顧 問	文 遲	理 事 長	武田 勝年
顧 問	村上 立躬	中国代表理事	王 昆
		常 務 理 事	荒井 克之
評議員	秋岡 榮子	理 事	片寄 浩紀
評議員	飯高 和子	理 事	張 瓏庭
評議員	岩沙 弘道	理 事	西堀 正司
評議員	殷 秋雄	理 事	廖 雅彦
評議員	江橋 崇	理 事	吉田 隆司
評議員	海江田万里		
評議員	木村 興治	監 事	青山 揚一
評議員	関 誠	監 事	名尾 邦博
評議員	曾 徳深		
評議員	竹下 亘		
評議員	成澤 廣修		
評議員	福田 昭昌		
評議員	横川 健		

(順不同・敬称略)

## ● 就任ご挨拶 ●



公益財団法人 日中友好会館  
常務理事 荒井 克之

2014年7月3日開催の理事会で新年度の体制が決まりました。私は日中友好会館では“新人”ながら常務理事として仕事をさせていただくことになりました。「こんな時期に大変だね」と半ば慰め口調で励ましてくれた友人もいましたが、マスコミが伝える日中間の往来が低調なときに仕事ができるのをむしろポジティブにとらえています。友好事業はどんなときでも継続し発展させてこそ意味があると考えています。

自己紹介になりますが、私自身の中国とのかかわりは1967年に「第三次学生友好訪中参観団」の一員として広州、上海、北京などを訪れたことが始まりでした。今では「十年浩劫」と言われる文革中の中国の動きは当時の私にはダイナミックに映りました。帰国後はヒヤリングの勉強にと思い「中央人民広播電台」の短波放送を聴いていましたが、プップップ・ポーンという信号音の後に続く「刚才最後一響是北京時間零点整」のアナウンサーの声調は今でも耳に残っています。

その後、航空会社の上海駐在員として1974年9月29日、新たに開設された日中間の航空路を飛ぶ初便を迎え、そして夕陽の中、日本に向け上海虹橋空港を飛び立つ機影を見送った時の感激は今も忘れることはありません。

その時から40年の歳月が流れましたが、この間多くの関係者の弛まぬ努力と志で大きく前進させてきた両国関係を「低調」の中に押し込めておいて良いはずはありません。「低調」のなかにも上昇気流の魂を見つけ出す努力を絶えず続けて行きたいと強く思っているところです。

このたび、私が日中友好会館で仕事をさせていただくに際しては多くの関係者のご理解とご支援があったと思っていますが、40年前の上海での感激を忘れずに「老驥伏櫪、志在千里」の気持ちでがんばろうと思っています。

日中友好会館の事業に対し今後とも変わらぬご理解と温かいご支援をいただければ幸いです。



## ● 行事案内 ●

### 日中友好会館美術館

#### ◆貸美術館催事 「筆之友選抜書展」

会 期：8月25日(月)～8月31日(日)  
 時 間：10時～17時  
 ＊初日は展示作業終わり次第、  
 最終日は16時まで  
 主 催：筆之友選抜書展

筆之友会員、師範以上の会員により日頃の精進の成果の発表の場として、年1回開催しています。各自オリジナルに作品を創作しています。

【問合せ】筆之友選抜書展  
 電話：049-244-2222



### 日中友好後楽会

#### ◆9月談話会 「天下第一の家-孔子七十五代の子孫が語る」

日 時：9月11日(日) 17:00より  
 場 所：日中友好会館  
 地下1階 大ホール  
 参加費：1,500円  
 非会員の方はお問い合わせください

今回の談話会では、現在後楽寮生で早稲田大学文学研究科にて東洋史学を学び、孔子の75代目の子孫にあたる孔明さんを講師に迎え、「天下第一の家」と称し、宋代以降清末まで「衍聖公(えんせいこう)」という爵位を与えられた孔子一族の歴史について、お話しいたします。

孔子の没後も二千年余り大貴族として続いた孔子一族の知られざる歴史のほか、孔子家と王朝及び日本の関係など、孔子の子孫という立場からお話しいたします。どうぞご聴講ください。談話会終了後は、館内にて懇親夕食会を予定しております。

(担当：緒方)

#### ◆新規会員ご紹介

2014年7月入会  
 山崎 寛治さん

【申込み・問合せ】  
 後楽会事務局 小林、緒方、大竹  
 電話：03-3811-5305 FAX：03-3811-5263  
 メールアドレス：kourakukai@jcfc.or.jp

## ● 活動記録 ●

### ◆ 春季ハイキング

春のバスハイクは、6月6日に実施し、千葉県香取市、成田市と茨城県潮来市を訪問しました。



ハナショウブを背に記念撮影

午前中は、千葉県と茨城県の県境の川をサップ船に乗りながら水路をめぐり、その後、水郷佐原水生植物園で東洋一の品種を誇るハナショウブを鑑賞しました。梅雨の時期と重なり、お天気には恵まれませんでした。サップ船の中では女船頭さんの歌に聞き惚れ、水生植物園では綺麗に咲くハナショウブに心を奪われました。



テーブルを囲んでランチ交流

午後は成田市に移動し、和菓子の老舗・なごみの米屋の工場を訪問。会社概要の説明を受けた後、主力商品の羊羹をはじめとした和

菓子の生産ラインを見学しました。また、おいしい羊羹がお土産として用意されるなど、今回のハイキングは参加者一同、いろんな意味で記憶に残ったようです。次回のバスハイクは秋に実施予定です。

(後楽会事務局)

### ◆ 藤沢市訪問

藤沢市は神奈川県中部、片瀬海岸と江の島に取り囲まれた位置にある。秀麗な風景と豊かな文化の詳細が藤沢市を日本屈指の観光名所へと押し上げた。さらに2014年「主婦が幸せに暮らせる街ランキング」で全国1位という評価をされた。1981年の中国昆明市との友好都市締結以来、藤沢市は中日の文化交流活動を途切れることなく推し進めてきた。中日友好のために巨大な貢献をしているのである。

今回、留学生事業部の陳先生と寮生委員会の林さんの引率の下、後楽寮の20名あまりの寮生は藤沢市訪問見学を行うこととなり、私も幸運にも今回の活動に参加することができた。

まず、私たちは故人を追想する気持ちをもって聶耳（ニエアール）記念碑を訪れた。天の神様は都合よく願いをかなえてくれず、どんよりとして小雨が入り混じった天気だった。その天気の中、この偉大な作曲家に思いを馳せて懐かしんだ。聶耳記念碑の責任者の古橋先生は簡単に聶耳記念碑の来歴を紹介された。その後、陳先生と寮生委員長の梁さんが記念碑に献花を行った。全体寮生も黙とうを捧げて、順次、記念碑を拝んだ。



聶耳記念碑に黙とうを捧げる

続けて、私たちは江の島水族館に着いた。館内は豊富な種類の魚類が飼育されており、私たちは驚いて目を見張るばかりだった。素晴らしいイルカショーでは、日本の子供たちの歓声が鳴りやまなかった。水族館を出てから、バスに乗ってすぐに江の島島内に着いた。おいしいもの、神社、風景、観光エスカレーターで一階ずつ上昇したのも、忘れられない良い思い出だ。江の島の最高地点にある観光塔に立つと、一目で余すことなく周囲を見渡せる風景は素晴らしく、心はまさに別天地にいるようであった。風景を見終わってから、私たちは蕎麦道場松本館を訪れた。年老いた先生方の心の込もった丁寧な指導の下、私たちは手捏ね蕎麦の製作過程を体験した。一生懸命に蕎麦作りをがんばって、しばらくした後、自分たちの労働の成果を食したのだった。あのおいしさは、今なお記憶に残っており、忘れられないものである。

昼ご飯を食べてから、湘南ロボケアセンターを訪れ、施設を参観した。このセンターは神奈川県との協力で建てられたもので、運動能力を喪失した高齢者や障がい者のリハビリ治療に力を注いできた。責任者が詳しく紹介し、ケアロボットの効能を披露した後で、私たちは幸運にも自分の身をもってケアロボットの操作を体験したのだった。ハイテクノロジー

は大変珍しく、非常に不思議で驚かない者はいなかった。

ロボケアセンターを見終わった後には、空の色はもう薄暗くなっていた。私たちはバスに乗って最後の体験場所である、さつまや本店に到着した。板長の気合いの入った指導の下、寮生たちは高級寿司職人の感覚を体験した。一つ一つの寿司は見るだけでよだれが出てきそうになり、とてもおいしそうだった。すべての実習プログラムでは歓声や笑い声が途切れず、和気あいあいと大変楽しいものであった。寮生たちは自分たちで握ったおいしいお寿司を目の前にして、忘れないように一緒に写真を撮り、よい記念にしていた。



自作の寿司を手にする寮生

一日の参観はここで終わった。私の心に一番深く残っているのは、日本の友人の熱意と友好である。中日両国の純朴な人民の間には、国籍などというものは超越していると思う。人と人との間の最も基本的な感情は、月日が経つにつれてどんどん新しくなっていくし、今後さらに一層きらびやかに輝いていくだろうと思う。

(後楽寮生 劉暢)

## ◆観光体験・留学生の発信力に期待！

公益財団法人日中友好会館後楽寮の学生さん他 24 名に今年も藤沢市観光体験プログラムにご参加いただきました。今回は応募者も多かったとのことで嬉しい限りです。

藤沢市鵠沼海岸の聶耳記念碑への献花に続いて新江ノ島水族館でイルカのショー他を楽しみ、江の島へ向かいました。江の島サムエル・コッキング苑内の松本館での蕎麦打ち体験では、いつも驚くのですが後楽寮の皆さんはとても手先が器用で特にこねが大変上手です。自分が打った蕎麦を堪能した後、藤沢市辻堂にある「湘南ロボケアセンター」を訪ね、最新鋭の歩行介護ロボットHALを実際に体験しました。脳で思ったことが体を動かさずにロボットに伝わるといった技術に感動。



体に電極を付け、歩行ロボットを動かす体験

続いてお待ちかねの寿司作り体験。寿司店さつまやの大将は、初めての体験なのに手際よく巻物や握りを完成させる感性の良さに驚いていました。

1 日を通し、参加した皆様に中国の家族や友人にその場から SNS 等で情報発信していただきました。今後沢山の中国の方が藤沢市や江の島について知り、訪れていただくことを心から期待し、今後も継続していきたいと思っています。

(公益社団法人 藤沢市観光協会)

## ◆後楽寮ビール祭り

7月5日(土)、夜8時から「後楽寮ビール祭り」と銘打ち、夏の後楽寮生交流会を行いました。これは留学生事業部が主催したもので、研究や論文等に毎日頑張っている寮生に少しでも息抜きをしてもらおうと行ったものです。寮生委員会にも協力をしていただき大成功の会となりました。

当日は大使館教育処の譚一等書記官、張二等書記官もわざわざ電車で参加してくださり、飲みながら寮生と交流をしていただきました。また実施にあたり武田理事長をはじめ多くの職員の皆様や業者の方にもご協力をいただき感謝しています。



大使館教育処と留学生事業部の挨拶

後楽寮で行う催事は寮生委員会が中心となりお客様を迎えることが多いため今回のように参加した寮生みんな普段着のまま楽しめる行事も大事なことだと感じています。来年も是非開催したいと思っています。



ビールやジュースを片手にリラックスする寮生達

(留学生事業部)



## ◆「JENESYS2.0」 中国大学生訪日団第10陣が来日 一行128名が東京・大阪・和歌山・ 京都にて活動

2014年6月5日から6月12日までの日程で、「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第10陣（団長＝朱丹・中国日本友好協会 副秘書長）計128名が来日した。本団は、北京市・天津市・河北省・山東省の4地域の日本語を学ぶ大学生・大学院生で構成され、外務省が推進する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

訪日団は、東京と大阪にて大学を訪問し日本の学生と交流したほか、ホームステイやクールジャパンに関するセミナー、和歌山県によるブリーフ、日本の社会・文化・歴史に関する視察など、多彩なプログラムに参加した。

### 和食や世界遺産、大学生活、さまざまな角度から日本に触れる

東京では原田信男 国士舘大学教授より、「和食と日本文化－料理における中国と日本－」をテーマにセミナーを行った。中国でも和食の人気の高まっていることもあり、日本食文化の特徴や成立までの過程に関する話を、団員は熱心に聞いていた。

大学交流は上智大学と大阪大学を訪問した。上智大学では同学の国際交流に関する講義に続き、グループに分かれて交流した。自己紹介・他己紹介をした後、専攻や大学生活、将来のことや両国で流行のポップカルチャーなど自由に話し合った。交流後は同学学生の案内のもとキャンパスツアーを行い、日本の大学の雰囲気を楽しんだ。

大阪大学吹田キャンパスでは、被災地の国際比較研究に関する講義や同学中国人留学生の研究テーマに関する発表を聞いた後、グループに分かれて同学学生と交流した。日中の文化の違いや互いの国の印象、アルバイトや

大学生活、趣味・興味のあることなど、和気あいあいと語り合い、最後に各グループの交流内容を舞台上で団員が発表し、全員で交流成果を共有した。



上智大学でグループ交流

また、和歌山県ブリーフでは、和歌山県世界遺産保護センターの辻林浩センター長より、「世界遺産保護の取り組みについて」をテーマに、和歌山県内にある世界遺産・紀伊山地の霊場と参詣道の具体的な保護活動や世界遺産保護に関する次世代育成事業などについて話を聞いた。団員からは、世界遺産保護における課題、他国・地域との世界遺産に関わる協力関係、保護と観光業との両立など、多くの質問があがった。

さらに、和歌山県白浜町日置川地区の農家宅でホームステイを行った。団員は各家庭にて、一緒に食事を作るなど家族の一員として手伝いをしたり、川辺に蛍を見に行ったり、温泉に入ったり、それぞれがホストファミリーと楽しい時間を過ごしたようだった。別れの際は笑顔と涙を交えながら、ホストファミリー一人一人と握手と言葉を交わした。

その他、東京では国会議事堂・皇居二重橋・東京タワー、京都では世界遺産の金閣寺・天龍寺や嵐山の周恩来総理記念碑を参観するとともに、京友禅染めを体験した。また、大阪

では造幣局で日本の硬貨の製造過程について学び、大阪城を参観し、和歌山では円月島・千畳敷・三段壁といった海辺の景色を楽しむなど、日本の社会・文化・歴史・自然に触れた。



ホストファミリーと一緒に

8日間の多彩な活動を通じて、団員は日本に対する理解や関心をより一層高め、日本を身近に感じる経験となったようだった。

本団の受け入れにご協力くださったご関係の皆様、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(総合交流部)

## ◆ 「JENESYS2.0」

### 中国大学生訪日団第11陣が来日 東京と石川で教育分野の交流・視察

6月17日から6月24日までの日程で、中国大学生訪日団第11陣(団長=関立形 中国日本友好協会秘書長)が来日した。本団は、教育学を学ぶ浙江省と安徽省の大学生で構成された計69名で、外務省が実施する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

訪日団は、東京、石川を訪問し、日本の大学生との交流や、日本の教育をテーマとした

セミナーや地方自治体によるブリーフ、環境・防災に関する視察のほか、「クールジャパン」を体感するさまざまなプログラムに参加し、政治・歴史・文化・社会など包括的な対日理解を深めた。

### シティズンシップ教育について学ぶ

訪日団は、東京大学大学院教育学研究科 小玉重夫教授より、「新しい時代の学校のあり方」をテーマにセミナーを受けた。社会の中で自分の存在を見つけられない、居場所が分からないといった、現代の社会で発生している課題について、映画や著書、テレビドラマの例を見ながら学んだ。大学生からは、スクールカーストによってもたらされた悪い影響に対して、日本の学校や社会はどのように対応しているか、学生が自信を失っている時に教師としてどのようにアドバイスしたらよいか、中国には職業カーストがあるが、どのように自分の心理状態をコントロールし、社会の中で生きて行けばよいか、といった質問が挙がり、現代の学校や社会におけるシティズンシップ(市民性)について考える機会となった。

### 同世代の学生とグループ交流会

東京では東京学芸大学を訪問し、小学校教員養成課程社会選修の学生らと共に、「日本史演習 A-1」の授業を受けた。「近代における日本と中国」をテーマに、鎖国時代における日本と中国の交流の歴史や、今に伝わる中国文化など、日本の学生の研究成果を聞き、これからの日中交流の大切さを学んだ。その後のグループ交流会では10グループに分かれ、フリートークを楽しんだ。教師を目指す学生同士、日中の教育の違いや学生生活、流行のファッションなど話題は尽きず、交流会は大変盛り上がった。

石川では金沢大学を訪問。緑豊かなキャンパスを巡り、図書館やフレスコ壁画など見学

した後、14グループに分かれて折り紙交流を行った。千羽鶴を折りながら、英語、日本語、中国語を使って歓談し、ポップカルチャーやアニメ、恋愛など、同世代ならではの共通の話題で持ち切りになり、各グループ笑い声であふれていた。最後は各グループで折った鶴を全て糸で繋げ、訪日団にプレゼントされた。

両大学から大変温かく迎えられ、最後はメールアドレスや連絡先を交換し合い、今後も交流を続ける約束をしている学生がたくさんいた。



教育学を学ぶ学生同士の交流（東京学芸大学）

### 日本の教育現場、環境教育、防災教育を視察

訪日団は石川県立金沢錦丘中学・高等学校にて、石川県教育委員会から「学力向上の取り組み」についてブリーフを受けた。中国とは異なる教育方法や取り組みについて学び、質疑応答では、「生徒の学習への興味はどのように引き出すのか」「道德教育の具体的な内容について」「学力レベルはどう判断するか」といった質問が挙がった。その後、教育現場の視察として同校の中高生のクラスや実験室、体育等の授業を見学した。見学中もさまざまな質問がなされ、収穫の多い訪問となった。

東京都水の科学館では、家庭への送水の仕組みや水の実験室で水の性質を学習した。池

袋防災館では、震度7の地震体験、火災発生時の避難訓練、消火器訓練を行ったほか、防災映画を視聴し、災害時に何をするか？何ができるか？を学ぶきっかけとなった。大学生たちにとって、日本人が幼少期から行っている環境や防災教育の方法や、全国各地にある関連施設が大いに参考となったようだった。

そのほか一行は、国会議事堂、東京スカイツリー、石川県立九谷焼美術館、長町武家屋敷跡、金沢21世紀美術館などを参観。兼六園では茶道体験も行い、さまざまな角度からクールジャパンを体感した。ほとんどの団員が初来日で、「日本の教育取り組みを知り、学ぶことが多かった」「日本の大学生と交流し、同じ夢や趣味を持ち、共通点もあることに気付いた」「日本人の感謝の気持ちを大切にできる態度、もてなしの心に深く感動した」「今回の体験を家族や友人に伝え、日中関係の新しい未来に向かって努力したい」といった感想が多く聞かれた。本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。



ボランティアガイドさんと  
兼六園長町武家屋敷跡を参観

(総合交流部)

## ● 事務局通信 ●

このコーナーでは、弊会館をより一層、身近に感じていただくことを目指して、さまざまな内容をお伝えします。今回は、資産管理部のご紹介をいたします。

### ◆ 資産管理部のご紹介

資産管理部は会館の収益事業であるオフィスビル賃貸業並びにホテル（後楽賓館）事業を担当するとともに、これらの建物の維持管理を部長と技師長の2名が担当しています。

会館が所有する建物は本館・別館共に築30年を迎えようとしており、設備の更新やメンテナンスは、大小含めて日常的な課題となっております。

会館では数年前より、空調換気設備更新等の大規模な設備更新に合わせて、省エネ対策にも取り組んで参りました。省エネ対策前の電気使用量を比べますと、約25%（年間600kWh→年間450kWh）の節電に成功しました。更に電気以外のガス・水道・灯油を含めると省エネ達成率は約33%に上昇します。

現在の資産管理部の最大の課題は、2020年東京オリンピックの開催までに、後楽賓館全館の改修を終了させることです。後楽賓館は客室階が8フロアありますが、平成25年度から改修に着手し、現在、4階、5階の2フロアの改修を終えました。毎年1~2フロアの改修を進め、オリンピック開催に間に合わせる事が大きな目標です。

中国人留学生寮の後楽寮と中国語学校の日中学院が併設されている別館でも昨年度より5ヶ年改修計画を策定して本格的な改修工事が始まりました。今後も引き続き、後楽寮生、テナントの皆様、後楽賓館の宿泊客にご満足頂けるよう、建物設備の管理運営を適切かつ効率的に実施して参ります。



後楽賓館客室（改修後）



後楽賓館廊下（改修後）



## 会館行事と人の動き 6/1～30

### ● 会館行事

- 6/ 3 ▶ 後楽会中国旅行説明会・結団式
- 6/ 5 ▶ 後楽会気功・中国画教室
- 6/ 5～6/12 ▶ 中国大学生訪日団第10陣 来日 (6/6 同団歓迎会、6/11 歓送報告会)
- 6/ 6 ▶ 第11回理事会
  - ▶ 後楽会春季友好ハイキング (千葉・茨城方面)
- 6/10～7/ 2 ▶ 主催展「敦煌壁画作品展」(6/10 開幕、同展ギャラリートーク)
- 6/12 ▶ 後楽寮新入寮生懇親会
- 6/17 ▶ 「敦煌壁画作品展」講演会&茶話会
- 6/19 ▶ 後楽会気功・中国画教室
- 6/17～6/24 ▶ 中国大学生訪日団第11陣 来日 (6/18 同団歓迎会、6/23 歓送報告会)
- 6/24 ▶ 「敦煌壁画作品展」ミュージアムミニコンサート
- 6/25 ▶ 第6回評議員会

### ● 来館・訪問・面会

- 6/ 9 ▶ 中国日本友好協会 王秀雲副会長他 来館・昼食会 (江田会長、武田理事長、王理事他)
- 6/10 ▶ 敦煌研究院 王旭東副院長、中国大使館 趙平一等書記官 来館 (武田理事長、王昆理事)
  - ▶ 唐招提寺 石田太一執事 来館

### ● 行事参加、その他の活動

- 6/ 1 ▶ 池袋防災館見学 (後楽寮生)
- 6/11 ▶ 藤沢市視察体験学習 (留学生事業部、後楽寮生)
- 6/18 ▶ 文京区観光協会総会 (武田理事長)
- 6/26 ▶ 留団協定例会 (於:早稲田奉仕園)



発行

2014年8月1日発行 第302号

公益財団法人 **日中友好会館**

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目5番3号

電話(03)3811-5317 FAX(03)3811-5263

<http://www.jcfc.or.jp/>